

# 平成 21 年度東京文化発信プロジェクト事業の評価結果

平成 23 年 1 月

東京芸術文化評議会

東京都と東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）は、東京芸術文化評議会の提案に基づき、「東京から世界へ 新たな文化の創造・発信」をキーワードに、平成20年4月に「東京文化発信プロジェクト」を立ち上げました。以来、東京に集積する人材・施設などの文化資源を最大限に活用しながら、

- 1 世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信
- 2 芸術文化を通じた子供たちの育成
- 3 東京における多様な地域の文化拠点の形成

の3つの目標を目指し、芸術団体やアートNPO等と協力して、幅広い分野の文化事業を展開しています。

この「東京文化発信プロジェクト」の継続的な改善を目指し、平成21年度に実施した事業を対象として、当評議会が事業評価を実施しましたので、その結果をここに公表します。

#### 東京文化発信プロジェクト 事業評価概要

##### 1 対象

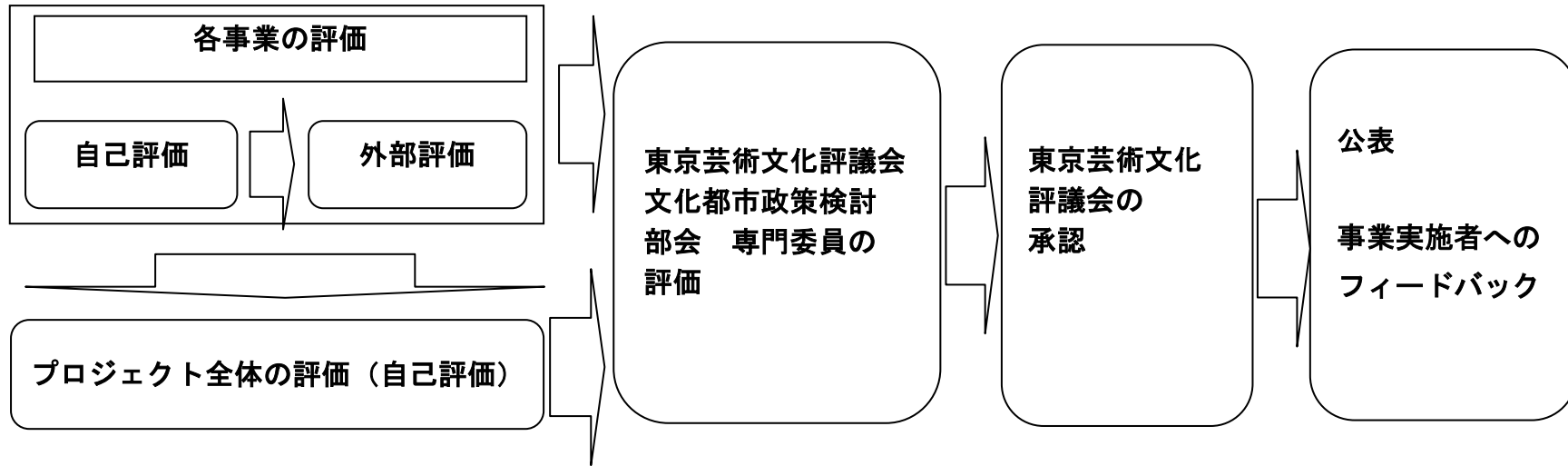
(1) 東京文化発信プロジェクトで実施した事業のうち以下のもの（計16事業）

「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業	「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業	「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業
<p><b>【伝統芸能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京発・伝統WA感動</li> <li>・東京大茶会</li> </ul> <p><b>【演劇】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェスティバル／トーキョー</li> <li>・芸術監督セレクション</li> </ul> <p><b>【音楽】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TOKYO MUSIC CIRCLE</li> <li>・東京都交響楽団ハーモニーツアー</li> <li>・海外批評家 in レジデンス</li> </ul> <p><b>【美術・映像】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・六本木アートナイト</li> <li>・恵比寿映像祭</li> <li>・現代アート・海外プロモート事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズ伝統芸能体験</li> <li>・パフォーマンスキッズ・トーキョー</li> <li>・Meet the Kids</li> <li>・ミュージック&amp;リズムス TOKYO KIDS</li> <li>・青少年のための舞台芸術体験プログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京アートポイント計画</li> </ul>

(2) 東京文化発信プロジェクト全体

2 評価の手法

(1) フロー図



(2) 東京文化発信プロジェクト全体の評価

評価の視点

- 1 手段の適切さ
- 2 プログラム構成 (ジャンル)
- 3 全体広報
- 4 東京文化発信プロジェクト全体の浸透度

(3) 各事業の評価

① 評価者

外部評価者は下表のとおりである (目標・分野ごと五十音順)

目標	分野	氏名	肩書き（評価当時）
「世界の主要都市と競い合える 芸術文化の創造発信」を目指す事業	伝統芸能	児玉 信	日本大学芸術学部演劇学科講師 実践女子大学文学部美学美術史学科講師 石川県立音楽堂邦楽部プロデューサー
		藤本 草	財団法人日本伝統文化振興財団理事長
		丸茂 美恵子	日本大学芸術学部演劇学科教授
	演劇	内野 儀	東京大学大学院総合文化研究科教授
		曾田 修二	跡見学園女子大学マネジメント学部教授
		渡辺 弘	彩の国さいたま芸術劇場制作部長
	音楽	小巻 亜矢	株式会社NaI代表取締役
		立川 直樹	プロデューサー
		田村 孝子	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ館長
		藤本 草	財団法人日本伝統文化振興財団理事長
	美術・映像	稲葉 郁子	朝日新聞社文化事業部
		岩渕 潤子	慶応義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究機構 (DMC) 教授
		鈴木 芳雄	ブルータス エディトリアル・コーディネーター
		村井 良子	有限会社プランニング・ラボ代表取締役
「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業	浅葉 和子	アートプロデューサー	
	大西 泰輔	Sony Music Foundation顧問	
	大月 ヒロ子	有限会社アイデア代表取締役	
	苅宿 俊文	青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター教授	
	黒河内 茂	日本伝統音楽振興会代表	
	曾田 修二	跡見学園女子大学マネジメント学部教授	
	前田 仁	キリンビバレッジ株式会社代表取締役社長	
	山崎 篤典	鳥取県立いわみ芸術劇場名誉館長	
	渡辺 弘	彩の国さいたま芸術劇場制作部長	
「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を 目指す事業	若林 朋子	社団法人企業メセナ協議会シニア・プログラム・オフィサー	
	平本 邦雄	共同通信社編集局文化部記者	

② 評価の視点

目標	視点
<p>「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</p>	<p><b>【事業評価】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 東京ならではの文化の創造・発信（クオリティ、影響力）</li> <li>2 文化の発信を通じた国際交流の推進</li> <li>3 将来の文化を担う人材の発掘・育成</li> <li>4 地域との連携</li> </ol> <p><b>【運営評価】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 適正な事業規模</li> <li>2 安定した財務運営</li> <li>3 安定した組織運営</li> <li>4 共催者である東京都及び東京文化発信プロジェクト室との協力連携</li> <li>5 効果的な事前・事後広報</li> <li>6 特別な配慮</li> </ol>
<p>「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</p>	<p><b>【事業評価】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 東京ならではの文化の創造・発信（クオリティ、影響力）</li> <li>2 子供の豊かな感性の涵養</li> <li>3 将来の文化を担う人材の発掘・育成</li> <li>4 地域との連携</li> </ol> <p><b>【運営評価】</b></p> <p>上記「『世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信』を目指す事業」と同じ</p>
<p>「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</p>	<p><b>【事業評価】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 東京アートポイント計画の浸透</li> <li>2 地域や市民の参画</li> <li>3 プログラム構成</li> <li>4 東京の多様性の発信</li> </ol>

## 東京文化発信プロジェクト 全体評価

### 【総括】

東京文化発信プロジェクトでは、3つの目標を達成するため、各目標に対し手段を設定し、手段に沿う各事業を伝統芸能、演劇、音楽、美術・映像の分野で実施した。「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」に向けた、国際芸術フェスティバルや文化イベントの実施では、独自性が高く世界の主要都市に比肩する事業が実現した。「芸術文化を通じた子供たちの育成」に向けた、本物の芸術文化・アーティストに触れる体験型事業の提供では、子供たちの成長過程に対して大きな効果を期待できる質の高い事業が実現した。「東京における多様な地域の文化拠点の形成」に向けた、アーティストと市民が協働するアートプログラムを、まちなかで他分野とも連携しながら実施する「東京アートポイント計画」では、ユニークな活動と仕組みによって、多方面からの地域の文化拠点を形成することに成功した。

このように手段に沿う各事業が大きな成果を上げ、且つ必要なジャンルがカバーされたことから、平成21年度の東京文化発信プロジェクトは目標を達成できたと言える。

目標	手段
世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信	質が高く独自性のある国際芸術フェスティバルや文化イベントの実施
芸術文化を通じた子供たちの育成	本物の芸術文化・アーティストに触れる体験型事業の提供
東京における多様な地域の文化拠点の形成	アーティストと市民が協働するアートプログラムを、まちなかで他分野とも連携しながら実施

### 【評価の視点別】

手段の適切さについて	東京文化発信プロジェクトの3つの目標を達成するための手段は、それぞれ下表のとおりであった。	
	目標	手段
	世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信	質が高く独自性のある国際芸術フェスティバルや文化イベントの実施
	芸術文化を通じた子供たちの育成	本物の芸術文化・アーティストに触れる体験型事業の提供
東京における多様な地域の文化拠点の形成	アーティストと市民が協働するアートプログラムを、まちなかで他分野とも連携しながら実施	

	<p>各目標を達成するためにとったそれぞれの手段は、非常に有効であった。</p> <p>「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」に向けた国際芸術フェスティバルや文化イベントの中からは、「フェスティバル／トーキョー」「六本木アートナイト」「恵比寿映像祭」等、独自性が高く世界の主要都市に比肩するプログラムが生まれてきている。</p> <p>特に「フェスティバル／トーキョー」は、国際共同製作、国内アーティストへの新作委嘱などを積極的に展開し、舞台芸術における創造と交流、発信の国際的なプラットフォームとして機能した。</p> <p>「芸術文化を通じた子供たちの育成」に向けた、本物の芸術文化・アーティストに触れる体験型事業の中では、「キッズ伝統芸能体験」で伝統芸能や伝統文化に触れる多様な機会を提供したことが、子供たちの成長過程に大いに効果的だった。また、「パフォーマンスキッズ・トーキョー」は、豊富な実績を有するNPOとの共催により、アーティストによるワークショップと子供たちが主役の舞台作品づくりを組み合わせた、質の高い事業となった。</p> <p>「東京における多様な地域の文化拠点の形成」のため、アーティストと市民が協働し、まちなかで他分野とも連携しながら実施した「東京アートポイント計画」では、アートと地域を結びつけるユニークな活動・仕組みにより、ソフト面、人材面で地域の文化拠点を形成することに成功した。「墨東まち見世2009」など、参加性が高く地域の文化資源の発見につながるアートプロジェクトが、目標の達成に特に有効に機能したことに加え、各地域の社会的課題を掘り起こし、その解決を探るアートプロジェクトとして、今後の可能性を感じる。</p> <p>各事業の手法は、企画力と実行力を持ったNPOとの連携により、ボランティアなども巻き込みながら実施されており、ノウハウの蓄積やネットワークの構築など、持続性のある枠組みを組成した。今後、目標をより高いレベルで達成するためには、戦略的に事業を継続していくことが何より必要である。その上で、特に国際芸術フェスティバルや文化イベントの実施においては、都立文化施設の積極的な活用や、分野を横断する実験的な試みに着手することも検討されたい。</p>
<p>プログラム構成（ジャンル）について</p>	<p>東京文化発信プロジェクトは、伝統芸能、演劇、音楽、美術・映像の分野で多彩な事業を展開しており、必要なジャンルはほぼ網羅されている。特に演劇と美術・映像分野については、海外への発信に大きく貢献した「フェスティバル／トーキョー」や、高い集客力・発信力を見せた「六本木アートナイト」などの成功により、「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」の実現に大きく寄与した。</p>

	<p>また、「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業と、「東京の多様な地域の文化拠点の形成」を目指す「東京アートポイント計画」についても、多彩で充実した内容であった。</p> <p>今後、東京文化発信プロジェクトの効果を更に高めるためには、マンガ・アニメ、デザイン、映画、ファッション、建築、メディア・アート等、世界が注目している分野での展開を検討することも必要である。複数のジャンルにまたがる芸術表現についても、同様に検討が必要である。</p> <p>あわせて、これまで2年間実施してきたジャンルについても、一層効果的に展開するため、成果と課題を確認し、重点化などの戦略を検討すべきである。</p>
<p>全体広報について</p>	<p>東京文化発信プロジェクトの広報では、プロジェクト全体をアピールするため、新聞、雑誌（一般誌／専門誌）、車両、駅、ウェブ等への広告掲出や、取材誘致・新聞等への掲載を働きかけるPR活動も行っている。</p> <p>こうした全体広報は、東京文化発信プロジェクトの目的やねらいを文化に関心がない層にも遡及し、浸透させるために不可欠であることから、積極的に行うべきである。</p> <p>また、効果を一層高めるためには、テレビ、ラジオ、インターネット等、より多様な媒体に取り上げてもらおうよう働きかけるべきである。</p>
<p>東京文化発信プロジェクト全体の浸透度について</p>	<p>各事業への来場者に対するアンケートの結果によると、「東京文化発信プロジェクト」を知っている人は、各事業平均24.6%であった。</p> <p>一見すると世間一般に対する浸透度はやや低いように見えるが、開始わずか2年目（評価時点）の事業としては、妥当な水準である。</p> <p>今後も、東京文化発信プロジェクト全体の目的やねらいを丁寧に説明しつつ、発信力を備えた魅力ある個別事業を着実に実施し、個別事業の認知度を上げることこそが、浸透度向上への最善の策である。</p> <p>なお、関係業界に対しては、口コミ等を通じて浸透してきている。これは、東京都が多様な文化事業を支援し始めたと関係業界で話題になっていること、複数の分野において同時多発的に事業を展開したことが寄与したと考えられる。</p>



事業名	東京発・伝統 WA 感動	事業開始	平成 21 年度
区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</li> <li>2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</li> <li>3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</li> </ol>	ジャンル	伝統芸能
目的	古典芸能の活性化と普及、古典芸能の魅力を広く国内外に発信		
内容	<p>誰もが気軽に楽しめる東京発の伝統芸能フェスティバル。邦楽、日本舞踊、民俗芸能、落語の一流の実演家による伝統芸能を広く取り上げ、普段あまり伝統芸能に接する機会のない方や子供たちにも楽しめるよう、工夫を凝らした公演を実施した。</p> <p>会期及び会場：【邦 楽】 8月28日（金）～30日（日）東京芸術劇場（入門）、10月1日（木）東京芸術劇場  【日本舞踊】 9月19日（土）国立劇場  【落 語】 9月22日（火・祝）有楽町朝日ホール、10月11日（日）江戸東京博物館ホール  【民俗芸能】 11月21日（土）国立劇場</p> <p>来場者数：延べ 5,133 人（邦楽 1,798 人、日本舞踊 1,637 人、落語 1,306 人、民俗芸能 392 人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伝統芸能の家元が集中している東京ならではの、質の高い多様なプログラムを実施した。</li> <li>● さまざまな伝統芸能分野の実演家が一堂に会する事業を実施した。</li> <li>● 江戸文化全体を俯瞰できる事業内容だった。</li> <li>● 若い世代の実演家を登用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 発信力・創造性を高めるため事業内容の見直しが必要である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会場の集中・集約の検討</li> <li>・ 公演情報の発信方法の工夫</li> <li>・ 広く都内での実施の検討</li> </ul> </li> <li>■ 伝統芸能の担い手となる人材の育成を視野に入れた事業構築が必要である。</li> <li>■ 事業継続のためには自己資金（外部資金）の獲得が必要である。</li> </ul>	<p>分野横断的なプログラムや実力ある若手の積極的な登用などにより発信力・創造性の高いプログラムとする。</p> <p>また、事業継続のため、外部資金の獲得についても検討するべきである。</p>

事業名	東京大茶会	事業開始	平成 20 年度
区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</li> <li>2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</li> <li>3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</li> </ol>	ジャンル	伝統芸能
目的	日本の伝統文化である茶道に多くの都民が親しむ機会の提供、東京を訪れる観光客に「お茶の文化」とそれを育んできた「江戸・東京の文化」を紹介		
内容	<p>浜離宮恩賜庭園と江戸東京たてもの園で本格的な茶席や野点を味わうことのできる大規模な茶会。江戸時代からの伝統を誇る芸妓の華やかな舞踊や邦楽演奏などのステージイベント、外国人向けに英語で解説する野点、親子で体験できる茶道教室を実施した。</p> <p>会期及び会場：10月10日（土）、11日（日） 江戸東京たてもの園  10月17日（土）、18日（日） 浜離宮恩賜庭園</p> <p>来園者数：18,400人（たてもの園 8,800人 浜離宮 9,600人）  茶席参加者数：延べ 7,343人（たてもの園 2,153人 浜離宮 5,190人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●東京でなければ実現しにくい、話題性・発信性のある事業を実施した。</li> <li>●江戸・東京の文化を伝える会場で開催した。</li> <li>●茶道を通して国際交流を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■東京文化発信プロジェクト事業としての目標を明確にすることが必要である。</li> <li>■一過性のイベントに終わらせない、お茶文化の真髄にまで踏み込んだ事業に再構築することが必要である。</li> </ul>	<p>経費の見直しを行うとともに、茶文化の精神を伝える事業という目的を明確にして、「東京発・伝統WA感動」の一事業として実施すべきである。</p>

事業名	フェスティバル／トーキョー	事業開始	平成 20 年度
区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</li> <li>2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</li> <li>3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</li> </ol>	ジャンル	演劇
目的	東京からの舞台芸術の発信、舞台芸術の裾野の拡大		
内容	<p>東京芸術劇場など池袋界隈の文化拠点を中心に開催する舞台芸術の国際フェスティバル。国内外で注目を集めるアーティストの作品を製作・招聘するとともに、市民が主体的に参加できるプログラム等を実施した。</p> <p>会期：10月23日（金）～12月21日（月）  会場：東京芸術劇場、あうるすぽっと、にしすがも創造舎、シアターグリーン  プログラム数：19（パフォーマンス 16、参加作品 3）  来場者数：延べ 64,039 人（パフォーマンス 19,666 人、ステーション、カフェ 34,860 人、関連企画 4,611 人、参加作品 4,902 人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 斬新で社会に対して挑戦的な作品の上演が多い、東京の持つ文化的パワーにふさわしい事業を実施した。</li> <li>● 世界的に見ても専門性の高いフェスティバルに成長した。</li> <li>● 世界的な認知も一定程度達成した。</li> <li>● 舞台芸術分野における創造と交流、発信の国際的なプラットフォームを形成した。</li> <li>● メディアにより高い評価を得た。</li> <li>● 将来を嘱望される日本人アーティストを登用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一部演劇ファンにとどまらない層への普及を検討することが必要である。</li> <li>■ 舞台芸術を支える人材の育成及び舞台芸術を鑑賞する観客の育成に資する事業構築が必要である。</li> </ul>	<p>東京を代表する国際的な演劇フェスティバルとして継続するとともに、更なる観客層の拡大と、将来的には、この事業を核として、都市型フェスティバルが形成されるよう検討すべきである。</p>

事業名	芸術監督セレクション	事業開始	平成 21 年度
区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</li> <li>2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</li> <li>3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</li> </ol>	ジャンル	演劇
目的	東京芸術劇場における芸術文化の創造・発信機能の強化		
内容	<p>東京芸術劇場の初代芸術監督に就任した、日本を代表する演劇人・野田秀樹氏のセレクションによる舞台芸術作品を上演。また、アーティスト・日比野克彦氏によるアートプロジェクトを実施した。</p> <p>会期：【日比野克彦アートプロジェクト】 7月1日（水）～9月6日（日）  【ザ・ダイバー】 8月20日（木）～9月20日（日）  【天翔ける風に】 8月21日（金）～30日（日）  【農業少女】 3月1日（月）～31日（水）</p> <p>会場：東京芸術劇場  来場者数：延べ 37,241 人（日比野克彦 7,463 人、ザ・ダイバー10,891 人、天翔ける風に 9,169 人、農業少女 9,718 人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●国際的・先鋭的な東京らしい事業ラインナップだった。</li> <li>●野田氏の個性・才能を十分発揮したプログラムを実施した。</li> <li>●継続性と深みのある国際共同製作を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■発信力をより強化するような企画の検討が必要である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レパートリー化・再演などによる作品の成熟</li> <li>・メディアを通じた情報発信の拡充</li> </ul> </li> </ul>	<p>東京文化発信プロジェクトとしての意義付けを明確にし、発信力の高い事業として再構築を図るべきである。</p>

事業名	TOKYO MUSIC CIRCLE	事業開始	平成 21 年度 (単年度事業)
区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</li> <li>2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</li> <li>3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</li> </ol>	ジャンル	音楽
目的	都内各所で異なった音楽ジャンルやポップカルチャー、伝統文化などが融合する新たな文化創出		
内容	<p>「国際音楽の日」として定められた 10 月 1 日に向け、異なる音楽ジャンルやポップカルチャー、伝統文化などを融合させて新たな文化創出を目指す音楽イベントを展開した。</p> <p>会期及び会場：【和楽器×クラシック×アニメ】 9 月 25 日（金）ルネこだいら  【J-POP×JAZZ×DANCE】 9 月 27 日（日）都民広場  【J-POP×クラブ×ビューティー】 9 月 28 日（月）LIQUID ROOM  【J-POP】 9 月 30 日（水）東京厚生年金会館  【クラシック×J-POP】 10 月 1 日（木）東京文化会館</p> <p>来場者数：延べ約 7,070 人（9/25 1,000 人 9/27 約 2,500 人 9/28 1,000 人 9/30 1,600 人 10/1 970 名）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●首都・東京ならではの多様なプログラムを展開した。</li> <li>●さまざまな民間企業やNPOと連携した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■首都東京から発信する音楽プロジェクトという観点から事業の見直しが必要である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都が実施する事業としての意義づけ</li> <li>・テーマ性の打ち出し</li> <li>・プログラム、アーティスト、曲目の工夫</li> </ul> </li> <li>■発信力を高めるため、事業の見直しが必要である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント（コンサート）間の連携強化</li> <li>・開催地域の集中の検討</li> <li>・開催エリアの特徴（文化的・歴史的背景）を活かすような事業企画</li> </ul> </li> </ul>	<p>単年度事業のため終了。</p> <p>音楽事業を統合。平成 22 年度から始まる「ミュージック・ウィークス・イン・トーキョー」の実施にあたっては、東京文化発信プロジェクトの音楽事業全体のコンセプトと目標を明確に示していくことが求められる。</p>

事業名	東京都交響楽団ハーモニーツアー	事業開始	平成 20 年度
区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</li> <li>2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</li> <li>3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</li> </ol>	ジャンル	音楽
目的	東京都交響楽団による東京からの文化の発信		
内容	<p>「国際都市東京のオーケストラ」として評価の高い東京都交響楽団によるコンサートを海外や都内各地で開催した。</p> <p>会期及び会場：海外 【ソウル】4月16日（木）世宗センター 【シンガポール】4月19日（日）エスプラネード  都内 【瑞穂町】4月29日（水・祝）スカイホール 【あきる野市】5月9日（土）秋川キララホール  【檜原村】5月10日（日）檜原村立檜原小学校 【奥多摩町】5月17日（日）奥多摩町立古里小学校  【八丈町】5月30日（土）八丈町立三根小学校 【日の出町】6月20日（土）日の出町公民館  【大島町】7月22日（水）大島町開発総合センター 【豊島区】7月29日（水）東京芸術劇場  国内 【新潟市】4月5日（日）りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館</p> <p>来場者数：8,301人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●演奏に接する機会の少ない地域でアウトリーチを実施した。</p>	<p>■東京文化発信プロジェクト事業としての目標や成果、東京都交響楽団が果たすべき役割を明確にすることが必要である。</p>	<p>音楽事業を統合。平成 22 年度から始まる「ミュージック・ウィークス・イン・トーキョー」の実施にあたっては、東京文化発信プロジェクトの音楽事業全体のコンセプトと目標を明確に示していくことが求められる。この中で、都響については、都内での公演活動の充実や人材育成事業などを検討すべき。</p>

事業名	海外批評家 in レジデンス	事業開始	平成 20 年度
区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</li> <li>2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</li> <li>3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</li> </ol>	ジャンル	音楽
目的	東京の音楽シーンを世界へ発信		
内容	<p>国際的な音楽批評家を招聘し、東京で開催されるコンサートや音楽家の活動を広く見聞してもらい、海外の有カメディアで紹介してもらった。また、招聘した批評家の1名をパネリストとして、パネルディスカッションを行った。</p> <p>招聘した批評家及び滞在期間：マヌエル・ブルク（ドイツ「ヴェルト」紙記者）11月16日（月）～20日（金）  ジェームズ・ジョリー（イギリス「グラモフォン」誌編集長）2月14日（日）～20日（土）</p> <p>パネルディスカッション：開催日時及び会場 2月16日（火）17:00～20:00 トッパンホール  パネリスト ジェームズ・ジョリー、梅津時比古(毎日新聞専門編集委員)、岡部真一郎（音楽学者・評論家／明治学院大学教授）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●（間接的だが）世界的に見て東京の置かれている位置を確認するための事業として興味深い。</p>	<p>■東京文化発信プロジェクトにおける事業の位置づけを再検討する必要がある。</p> <p>■東京文化発信プロジェクトの目標達成に間接的にでも貢献するため、事業の見直しが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 招聘する批評家の適切な選定</li> <li>・ 成果をできるだけ多くの媒体で公表する機会の設定</li> <li>・ 海外批評家による掲載記事の効果のフォロー</li> </ul> <p>■他分野での展開を検討する必要がある。</p>	<p>音楽だけでなく、演劇・アート分野も含めた海外批評の手法を検討すべきである。</p>

事業名	六本木アートナイト	事業開始	平成 20 年度
区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</li> <li>2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</li> <li>3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</li> </ol>	ジャンル	美術・映像
目的	生活の中でアートを楽しむという新しいライフスタイルの提案、東京における街づくりの先駆的なモデルの創出		
内容	<p>六本木の街を舞台とした、一夜限りのアートの饗宴。アート、デザイン、音楽、映像、演劇、舞踊などの多様な作品を点在させ、アートと街を一体化させ、非日常的な体験を作り出した。</p> <p>会期：3月27日（土）～28日（日）  会場：六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、国立新美術館、サントリー美術館、森美術館、21_21DESIGN SIGHT、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース  プログラム数：49  鑑賞者数：延べ70万人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●時間・空間の枠を外し、街の中から新しい芸術文化や東京の魅力を創造発信した。</li> <li>●東京のポテンシャルの高さを内外に知らしめる、東京でしか実現できない事業だった。</li> <li>●集客力が高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■さらにインパクトを高め多くの参加者を得るという観点から事業を見直す必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点施設と拠点施設の間を面として埋める「イベント」の展開の検討</li> <li>・六本木地域にある機関・施設とのより幅広い連携</li> <li>・開催時期の検討</li> </ul> </li> <li>■経済基盤を確立させる必要がある。</li> </ul>	<p>街中での展開の更なる推進や他のフェスティバルを連携させた「同時多発的」な事業の実施など、さらにインパクトを高め、多くの参加者を得るという観点から事業を見直すべきである。</p> <p>また、事業継続のためには、経済基盤の確立が必要である。</p>



事業名	恵比寿映像祭	事業開始	平成 20 年度
区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</li> <li>2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</li> <li>3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</li> </ol>	ジャンル	美術・映像
目的	映像分野における創造活動の活性化、優れた映像表現やメディアの発展の継承		
内容	<p>日本初の本格的な写真映像の専門美術館である東京都写真美術館が全館を使って展開する総合的な映像フェスティバル。映像分野におけるジャンルを横断した芸術性の高い作品を紹介するとともに、多様な映像表現のあり方を考える場を提供した。</p> <p>会期：2月19日（金）～28日（日）  参加作家／作品数：106人（国内57人、海外49人）／299作品（展示178点、上映121本）  来場者数：延べ24,912人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●実験的でメッセージ性が高い、他に類を見ないプログラムを実施した。</li> <li>●参加者間の交流を促進する機会を提供した。</li> <li>●恵比寿ガーデンプレイスをはじめとする、多様な機関・団体と連携した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■東京文化発信プロジェクト事業としての独自性や魅力を高めるために、東京都写真美術館の中だけでなく、広く都内の複数施設での同時開催を検討することが必要である。</li> <li>■質の高い芸術文化の創造発信の観点から、無料開催の是非を検討することが必要である。</li> <li>■外国人来館者、ひいては海外に向けた発信力を強化することが必要である。</li> <li>■新進気鋭のアーティストを紹介する観点からの事業構築が必要である。</li> </ul>	<p>発信力を強化し認知度をさらに高めるために、特に他事業との連携や地域的な広がりを持たせること、有料化などについて検討すべきである。</p>

事業名	現代アート発信・海外プロモート事業	事業開始	平成 21 年度 (一部単年度事業)
区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業</li> <li>2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業</li> <li>3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業</li> </ol>	ジャンル	美術・映像
目的	Trans-Cool＝日本の若手作家の海外への紹介 / 井上雄彦＝現代における日本絵画の可能性の豊かさ、力強さの紹介 妹島和世＝ファッションと建築の各分野における革新的なアーティストの作品の組合せによる、芸術文化の新たな可能性の創造・発信		
内容	<p>【Trans-Cool Tokyo】 東京都現代美術館所蔵作品から若手アーティストの作品を中心に 30 点余を選び、タイ・バンコク芸術文化センターで展示した。 会期：2 月 25 日（木）～3 月 28 日（日） 来場者数：13,207 人</p> <p>【井上雄彦 エントランス・スペース・プロジェクト】 「バガボンド」「スラムダンク」などの作者・井上雄彦が、東京都現代美術館の巨大な壁面に筆と墨による新作を書き下ろした。 会期：10 月 31 日（土）～3 月 28 日（日） 来場者数：116,215 人</p> <p>【妹島和世による空間デザイン／コム・デ・ギャルソン】 デザイナー・川久保玲の服 32 点を、建築家・妹島和世デザインによる空間に展示した 会期：10 月 31 日（土）～1 月 17 日（日） 来場者数：41,469 人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 質の高い独自性のある事業だった。 (Trans-Cool)</li> <li>● 東京都現代美術館の裾野を広げる事業だった。 (井上雄彦)</li> <li>● 建築、ファッション等多方面から注目を集める事業だった。(妹島和世)</li> </ul>	<p>■東京文化発信プロジェクト事業としての目的を明確にすることが必要である。</p>	<p>東京文化発信プロジェクト事業としての意義付けを明確にし、発信力の高い事業として再構築を図るべきである。</p>

事業名	キッズ伝統芸能体験	事業開始	平成 20 年度
区分	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	伝統芸能
目的	子供たちの豊かな感性の育成、伝統芸能の世界に触れる機会の提供		
内容	<p>能楽、日本舞踊、箏曲、長唄三味線の一流の実演家から、子供たちが直接指導を受ける本格的な体験プログラムを実施した。</p> <p>事前体験：【芸能体験ひろば】5月5日（水・祝）芸能花伝舎 290人参加 【お試し体験・見学会】6月13日（土）、14日（日）芸能花伝舎 419人参加</p> <p>開講式：8月3日（月）国立能楽堂 稽古：8月～3月 都内各所</p> <p>発表会：【能楽】3月22日（月・祝）宝生能楽堂 【日本舞踊・箏曲・長唄三味線】3月29日（月）国立劇場大劇場 稽古参加者数：315人（能楽110人、日本舞踊86人、箏曲89人、長唄三味線30人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本の伝統芸能の豊かさと奥行きを学ぶ機会を（子供と保護者の双方に対して）提供した。</li> <li>●指導者の育成や指導者間の交流を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■より広い層へ事業の成果を広めるため、普及・体験型メニュー（お試し体験・見学会と現行プログラムの中間的プログラム）を中心として事業全体を構築する必要がある。</li> <li>■事業の効果・成果を伝えるため広報を充実させることが必要である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前体験プログラムの拡充</li> <li>・メディアを通じた情報発信の強化</li> </ul> </li> </ul>	<p>これまでの実績を踏まえつつ、今後さらに伝統芸能を子供たちに普及させる目的で、学校との連携や、モデル事業の実施を検討すべきである。</p> <p>また、成果を伝える広報の充実が必要である。</p>

事業名	パフォーマンスキッズ・トーキョー	事業開始	平成 20 年度
区分	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	演劇
目的	ダンスや演劇を通じた、子供たちの自主性・創造性・コミュニケーション能力の向上		
内容	ダンスや演劇、音楽などのプロのアーティストを文化施設や学校に派遣し、ワークショップや授業を行い、子供たちが主役の舞台作品をつくりあげ、最後に発表公演を実施した。  実施会場数：16ヶ所（ホール6ヶ所、学校8ヶ所、島しょ2カ所） ワークショップ期間：4日間（1ヶ所）～11日間（2カ所） ワークショップ参加者数：662人		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●子供の自発性・創造性を引き出すプログラムを実施した。</li> <li>●アーティストやコーディネーターの育成を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■本事業の全体像や成果を伝える普及ツールの開発が必要である。</li> <li>■学校での導入を促進するようなワークショップ・プログラムの開発が必要である。</li> <li>■ワークショップを担当するアーティストやパフォーマーの育成に資するような事業の企画が必要である。</li> </ul>	<p>普及プログラムの開発などにより、学校や地域の公共ホール等への成果の普及を目指すべきである。</p> <p>また、事業の新たな担い手の育成への留意が必要である。</p>

事業名	Meet the Kids	事業開始	平成 21 年度 (単年度事業)
区分	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	演劇
目的	舞台芸術を身近に感じてもらえるよう、子供が楽しめるアートとの出会いの場を提供		
内容	東京芸術劇場のアトリウムに仮設の舞台を設置し、土日を中心に、東京文化発信プロジェクトの子供系事業の発表の場とするとともに、子供向けのワークショップ等を開催した。  プログラム数：11 入場者数：延べ 10,973 人		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●多彩なプログラムを実現した。</li> <li>●施設（東京芸術劇場）や街（劇場周辺）を賑わせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■認知度を向上させる観点から事業を見直す必要がある。</li> </ul>	<p>単年度事業のため終了。平成 22 年度に開始する「TACT/FESTIVAL TOKYO」は、ワークショップ等の体験型事業を充実するよう構築すべきである。</p>

事業名	ミュージック&リズムス Tokyo Kids	事業開始	平成 20 年度
区分	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	音楽
目的	子供たちに音楽の楽しさ、素晴らしさを伝える		
内容	<p>世界で活躍する演奏家の指導のもと、子供たちが自然の中で竹を使った楽器をつくり、音楽を創り出すワークショップを実施。その成果を発表するコンサートを開催した。</p> <p>ワークショップ会場及び会期：【高尾の森わくわくビレッジ】9月26日（土）、27日（日）、10月3日（土）、4日（日）、18日（日） 【田園調布せせらぎ公園】10月11日（日）、12日（月・祝）、24日（土） 【都庁前 都民広場】10月25日（日）、31日（土）</p> <p>コンサート会場及び会期：11月1日（日）都庁前 都民広場 ワークショップ参加者数：267人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●既成の音楽教育では得られない経験を提供した。</li> <li>●子供の創造性を発揮させる取組みだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■社会的な認知度を向上させる観点から事業を見直す必要がある。</li> <li>・プログラムの対象を絞り、学校との連携を模索</li> <li>・成果を普及するための方策を検討</li> </ul>	<p>社会的認知度を高めるため、事業の見直しを図るとともに、学校との連携などにより、成果の普及を目指すべきである。</p>

事業名	青少年のための舞台芸術体験プログラム	事業開始	平成 21 年度
区分	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	音楽
目的	次世代を担う若者の舞台芸術に対する理解を深める		
内容	<p>東京文化会館で行われる国内外トップレベルのオペラ、バレエ、オーケストラなどの公演のゲネプロ（最終リハーサル）を、将来音楽家や舞台芸術家、またはそれらに関わる職業を目指す青少年たちに公開し、魅力ある舞台芸術に直接触れる機会を提供した。</p> <p>会期：6月～3月  公開したゲネプロ数：12（プレ企画を含む バレエ 4、オペラ 4、管弦楽 3、吹奏楽 1）  参加者数：1,006 人（プレ企画を含む バレエ 486 人、オペラ 411 人、管弦楽 43 人、吹奏楽 66 人）</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 青少年の感性、独創性、創造性を刺激する事業内容だった。</li> <li>● 東京文化会館ならではの創造発信企画だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 東京文化発信プロジェクト事業としての目的や対象を明確にすることが必要である。</li> </ul>	<p>事業の目的や対象を明確化し、東京文化発信プロジェクト事業の目的との整合性がとれるよう検討すべきである。</p>

事業名	東京アートポイント計画	事業開始	平成 21 年度
区分	1 「世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信」を目指す事業 2 「芸術文化を通じた子供たちの育成」を目指す事業 3 「東京における多様な地域の文化拠点の形成」を目指す事業	ジャンル	
目的	東京における多様な地域の文化拠点の形成		
内容	<p>人・まち・活動がアートを介して結ばれた点を「アートポイント」とし、都内各地に「アートポイント」を作り出すため、東京の特色ある地域資源を活用する「エリアプログラム」、教育・防災など様々な政策分野と関わる「複合型プログラム」、アートポイントの担い手を育成する「人材育成プログラム」を展開した。</p> <p>プログラム数と主なプログラム例：          エリアプログラム 5 (例)「墨東まち見世」隅田川の東エリアで 17 組のアーティストが約 3 ヶ月にわたりプロジェクトを展開          複合型プログラム 3 (例)「イザ! カエルキャラバン! in 東京」楽しみながら防災が学べる防災アートプログラムを実施          人材育成プログラム 2 (例)「Tokyo Art School」さまざまな角度から東京を見つめなおすレクチャー・シリーズを開講          参加人数：延べ約 13,750 人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「地域の文化拠点」の萌芽・形成が見られた。</li> <li>●アート NPO やアーティストと連携した。</li> <li>●他の政策領域にアートを取り入れた先端的な取組みを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■個々のプログラムを共催する NPO 等団体を適切に選択することが必要である。</li> <li>■多様で個性豊かな活動を行うアート NPO やそれを支える能力の高い人材の育成に資するような事業を構築することが必要である。</li> <li>■環境、福祉、科学技術など、異なる分野との複合型プロジェクトに取り組むことが必要である。</li> <li>■東京の多様な地域特性を活かしたアート・プロジェクトを推進することが必要である。</li> <li>■多様なメディアを活用し広報を充実させることが必要である。</li> </ul>	<p>活動を支える人材育成に資する事業や環境・福祉など異なる分野との複合型プログラムへの取組、その地域特性を活かしたアート・プロジェクトの新たな地域での展開、多様なメディアを活用した広報の充実などが必要である。</p>